

学部・研究科名 生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名 西野 康人

学科名・専攻名 北方圏農学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専門学習のために：特論科目の開講、研究の立案、実施、考察、文献検索など 修士論文を完成させるために：特別総合実験・演習科目の開講に加え、プレゼン能力や文章記述能力を強化する科目を開設している。	モチベーションの向上：研究成果ポスター発表会と表彰 対話による刺激：演習的授業を工夫、ポスター発表の全学生への公開 外部からの刺激：学会発表参加を促し、学外交流、オンラインセミナー等への参加を奨励している。	科目ごとに授業記録を取り、シラバスとガイダンスで評価基準を明示している。	ポスター発表により、指導教員以外の専攻の複数指導教員が修士論文の進捗程度を把握している。また、専攻内の論文発表会、研究科全体での修士論文要旨（日英）のチェック、修士論文発表会、指導教員および他の指導教員による修士論文の査読を行っている。	授業評価アンケートの実施、授業改善計画の作成と提出、毎年度のシラバス作成における科目毎の内容改善、学期終了時アンケートの実施と集計、新カリキュラムへの改善点盛り込みを行っている。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 学科の専門知識をベースに、修士課程で生物産業を文理融合の教育体系から学ぶことができる。	【長所】 知識を吸収する意欲を持続させ、地方にしながら世界に通用するレベルと意識をもたせる。	【長所】 ・教員による一方的な評価に陥らない ・学生にとっては努力に見合った評価	【長所】 ・指導教員によるきめ細かい指導 ・専攻内の他の指導教員による状況把握	【長所】 ・学生の授業評価は高い ・各授業担当者の工夫
	【特色】 雄大な自然を有するオホーツクにおいて、バイオテクノロジー、動植物生産、生態系保全を高度に学ぶことができる。	【特色】 少人数きめ細かい指導	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 ・高い満足度 ・高い授業出席率
現状説明を踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 外部講師の依頼は個々の教員に委ねられており、毎年の講師数は変動する	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 学生の学習志向を尊重しながらも多様な分野を指導し、満足度を得ること	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 ・学期毎、教科毎に内容の見直しと更新 ・見直しを行った科目の効果検証
根拠資料名	・学習の手引き ・講義要項＜シラバス＞	・成果発表会のポスター ・授業記録 ・授業評価	・授業記録 ・研究科委員会会議資料	・大学院修士論文発表会要旨集 ・修士論文	・学習の手引き、講義要項＜シラバス＞ ・授業評価アンケート結果。

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	・定められた試験制度の適切な立案と実施 ・試験日程は事前に専攻主任会議、研究科委員会に付議され承認された後に公示している ・受験希望者は必ず指導教授（予定者）と事前に面談し、受け入れ方針や入学後の研究計画等について確認している ・指導教授と大学院授業担当者による学科試験問題（外国語・専門科目）の作成。指導教員全員による口述試験を行い、公正に入学者を選抜している ・研究科で統一した合否基準を設定し、専攻での合否判定を踏まえ生物産業学研究科委員会において最終的な合否判定をしている ・入学試験問題を公開している ・入試科目を毎年点検している	・大学院進学者を増やすためには志望者の基礎学力と合格率向上が重要と考え、「英語塾」と称する大学院入試対策講座を、前期中に有志教員で行っている ・内部（本学部）の学生は、指導予定教授が進学の意味確認と適性の判断をしている ・外部（他大学 or 留学生）の学生は、指導予定教授による事前説明と適性の判断、専攻主任による確認を行っている ・指導教授全員による口述試験で、学生の進学適性を判断している ・指導教授全員による修士論文の回覧と審査により、学生の到達度レベルの判定と受け入れに対するフィードバックを行っている
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・指導教授が中心となって入試の試験問題を作成するので、専門的な内容の理解を問うことができる ・外国語に関しては、複数の指導教員で問題の難易度を判定・確認している ・入試における専門科目の名称変更により、受験者が専攻において必要な知識をイメージし易いように考慮している	【長所】 特になし
	【特色】 ・口述試験では様々な専門の指導教授があたるので、受験する学生の幅広い知識やコミュニケーション能力をみることができる ・外国語試験に関しては、適切なレベルを維持した出題である	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	・研究科委員会会議資料 ・入試試験問題用紙	・卒業時アンケート結果（研究科委員会会議資料） ・修士論文 ・研究科委員会会議資料 ・北方圏農学科学科会議資料

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	研究科及び専攻ごとに編制方針を定め、これを専攻主任会議及び専攻会議等にて全構成員に周知している。 外部には、教員募集の際に本方針を踏まえた内容を大学ホームページに掲載している。	大学院設置基準及び学内の教員枠を踏まえ、方針に基づく教員を配置している。 専攻内は 3 分野体制（植物資源生産学分野：指導教員 5 名、動物資源生産学分野：指導教員 4 名、生物資源保全学分野 1 名）である。	・教員の採用は一般公募とし、大学のホームページにて募集している。本年度の教員募集はなかった ・専攻主任と専攻指導教授による人事検討会議を複数回実施し、人事計画を立案している ・本年度に指導教授・指導補助教員の申請はなかった	大学全体でアンケート形式による自己教育評価と学生による評価（授業・研究室）を毎年度実施し、これをフィードバックするとともに、特に改善を要する事項については、改善計画書を求めている。 依命国外留学制度の利用を呼び掛けたところ、数名から希望があったので学科・学部での調整を行っている	専攻における人事計画（指導教授や指導准教授への昇格・採用等）を専攻主任が中心となって立案し、これを専攻における指導教授会議の中で確認・共有している。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 特になし	【長所】 特になし	【長所】 ・公募により意欲的な人材採用が可能 ・指導教授間で昇任対象者の情報を共有することで、公平性が保たれている	【長所】 依命国外留学に関しては、 教員の質の向上 国際交流の活性化が期待できる	【長所】 専攻内の指導教授間で共通認識を得ている
	【特色】 オホーツク地域の特色・強みを活かすことのできる業績・考えを持った教員であること	【特色】 学科の各研究室から進学した学生の修士論文作成に対応可能	【特色】 資格審査委員会により、多岐にわたる専門性に対応できる審査を実施している	【特色】 ・1 年間の海外で研鑽を積むことにより、教員のスキルアップにつながる ・周囲への波及効果が期待	【特色】 特になし
現状説明を踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 基礎学科で学んだ知識を深めるために、基礎学科授業担当教員全員を大学院授業担当にすべきである	【問題点】 ・組織としてバックアップが必要 ・留学生の元の所属場所の業務量増加	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 生物資源保全学分野における指導教員もしくは指導補助教員の増員	【課題】 特になし	【課題】 可能ならば 1 年間の臨時雇用などの対策	【課題】 特になし
根拠資料名	・研究科及び専攻の編制方針 ・教員募集に係る大学ホームページ ・学修の手引き ・講義要項＜シラバス＞	・大学院案内 ・学修の手引き ・講義要項＜シラバス＞ ・専攻内会議の資料（非公開）	・資格審査委員会資料 ・専攻内会議の資料（非公開）	・自己教育評価のアンケート ・授業・研究室アンケート	・大学院案内

学部・研究科名生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名西野 康人

学科名・専攻名海洋水産学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・専門分野への学識を深めるため、オホーツク水圏環境学分野とオホーツク水産生物学分野を設け、それぞれに必修科目を設定している。科目の内容と順次性を考慮した単位を設定している。研究の立案、実施、考察などを実施して修士論文を完成させるために特別総合実験・演習科目を開講している。	・年1回、研究成果のポスター発表会を実施している。 ・外部講師の招聘や学会発表の機会を設け、外部からの刺激を受ける機会を設けている。 ・教員のみならず、学生同士も議論できる講義を設けている。	・シラバスおよびガイダンスにおいて評価基準を示し、科目ごとに授業記録を残している。 シラバスにのっとり、適切に単位を認定している。 学位授与は、学位論文ならびに専攻内における発表会を行い、総合的に判断して授与している。	・毎年実施している成果発表会で、専攻の教員が修士論文の進行状況も含めた学習成果を把握している。 ・各科目の担当教員が適切に指標を設定して把握し、単位認定を行っている。 ・専攻内発表会において専攻の教員が学習成果を把握している	・大学で実施している大学院生による授業評価アンケートの結果および各教員が学習成果の把握結果を元に講義内容の改善や向上を試みている。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 ・豊饒の海、オホーツク海を目の前にし、座学を実体験として学び、分野の特性に合わせた学びができる。	【長所】 ・自身の研究内容をまとめ、発信する力のトレーニングとなる。 ・学生同士、自身の研究を鑑みながら、異なる研究を知る機会がある。	【長所】 ・複数人による審査体制で評価を実施している。	【長所】 ・専攻の教員による修士論文の進行状況を把握している。 ・異なる分野の教員からの意見を聞くことができる。	【長所】 ・定期的に点検と評価を行い、改善することができる。
	【特色】 ・水圏に関わる生物学的・生態学的・環境学に関する専門的知識の修得できる。	【特色】 ・学生同士議論ができる。	【特色】 ・複数の教員による客観的な評価の実施。	【特色】 ・指導教員以外の教員からの意見を聞くことができる。	【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・生物産業学的視点において科目に偏りがみられる。	【問題点】 フィールド調査と授業が重なることがある。	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 ・生物産業学的視点を踏まえた科目の充実化。	【課題】 調査による欠席学生に対する補講等学修機会および方法を検討。	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	カリキュラムポリシー、シラバス	成果発表会要旨集 授業実施記録	シラバス 最終成績評価表	成果発表会要旨集	学生による授業評価アンケート結果 シラバス

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・学生の受け入れ方針に基づき、学生募集方法及び入学者選抜制度適切に整備し、指導教授全員による口述試験を実施するなど、入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。 ・受験予定者には、事前に指導教授（予定）と面談を行い、入学後の研究計画等について相談をおこなっている。 ・試験問題（外国語・専門科目）の作成は専攻の指導教授、大学院授業担当者が行い、口述試験は全指導教授により実施し、その結果を踏まえ、全指導教授の合議のもと、公正に入学者を選抜している。	・学生受け入れの適切性について、専攻で受け入れた学生の学習成果を元に点検・評価を行っている。また、その点検・評価結果に基づき、学生受け入れの適切性について改善に取り組んでいる。 ・専攻会議（学科会議と合同で行っている）において、就学状況の共有を図っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・口述試験では専攻の全指導教授であたるため、受験する学生の幅広い知識やコミュニケーション能力を評価することができる。	【長所】 ・研究科・専攻としての制度の見直し。
	【特色】 ・複数教員による評価の公正性の確保。	【特色】 ・専攻独自の入試制度の設計を行なった。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	東京農業大学大学院募集要項 東京農業大学大学院ホームページ	専攻会議議事録（学科会議議事録と合同）

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・オホーツク水圏での実践的な研究教育により、水産資源生物の保全や増養殖分野において社会に貢献できる人材を養成できる教員を配置している。 ・教員募集の際に大学ホームページに掲載して、応募してきた候補者から教員を選抜する。	・大学院設置基準及び学内の教員枠を踏まえ、方針に基づく教員を配置している。 ・専攻内は2分野体制（オホーツク水圏環境分野、オホーツク水産生物学分野）である。	・教員の採用は広く一般公募とし、大学のホームページや JREC-IN で募集する。 ・昇格基準を満たした教員に対しては、昇格申請を提出するようにしている。 ・採用に際して、専攻による選考試験のほか、資格審査委員会において専門性と職階による教育研究業績基準に照らし合わせた厳格な審査を実施している。	・自己点検アンケートと大学院生による授業評価を定期的の実施し、これを元に教員の資質の向上を図っている。	・専攻内において教員体制について定期的に評価し、改善案について検討し、実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・大学・研究科のディプロマ・ポリシーに基づいている。	【長所】 ・各分野の目的を達成できる研究室体制	【長所】 ・人材を広く募集することができる。	【長所】 特になし	【長所】 専攻内での問題の共有
	【特色】 ・海洋水産学専攻のディプロマ・ポリシーに基づいている。	【特色】 ・研究室、分野を考慮した編成	【特色】 ・複数の段階で審査を実施し、より公正に人材を採用することができる。	【特色】 特になし	【特色】 事前に専攻内教授会にて問題の抽出・整理
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 ・安定的な専攻運営を行う上で、指導教授の人数が不足気味である。	【問題点】 ・昇格に積極的で無い教員がいる。	【問題点】 国際的活動が少ない。	【問題点】 ・中長期的レベルの人事計画が不十分である。
	【課題】 特になし	【課題】 ・指導教授ならびに指導補助教員の人数を増やす。	【課題】 大学院運営に関わることができる教員数を増やす。	【課題】 依命留学制度の利用や国際化に向けた活動の積極化	【課題】 ・業績向上のための支援体制の構築
根拠資料名	大学 HP の教育研究上の目的・教育目標・3ポリシー 教員募集に関する大学 HP	東京農業大学学部・学科・課程紹介 大学院案内	教員公募案内	自己点検結果 学生による授業評価アンケート結果 専攻会議（学科会議ど同時開催）議事録	専攻会議(学科会議ど同時開催) 議事録

学部・研究科名生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名西野 康人

学科名・専攻名食香粧化学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・昨年度より改定・実施した授業科目について、あらためて確認した。	・研究科で実施するポスター発表会時に、専攻内で独自のコアタイムを設けた。	・各教員が成績評価を適切に実施し、とくに学位取得のための口頭発表審査会については慎重に取り組んでいる。	・大学院に進学した時点で、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、専攻で毎年確認している。	・学生による授業評価アンケート結果を参考に、講義内容をブラッシュアップを各担当者が必ず実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・学生-教員、学生-学生、教員-教員間でのディスカッションを促進させた。	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・定期的な点検・評価とその共有
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・教員からのアドバイスのみならず、大学院生同士のディスカッションにより、切磋琢磨できる。	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	大学院シラバス、履修モデル、専攻3ポリシー	専攻会議記録、研究進捗プレゼンテーション実施記録	大学院シラバス	専攻3ポリシー	授業評価アンケート

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・大学院入試説明会および相談会を実施し、アドミッション・ポリシーおよび入試制度について説明をしている。 ・入試の面接、試験の得点や順位などは、専攻内の基準に則って公正に実施している。 ・推薦試験の導入を導入した。	・定員の確保はできている。 ・各指導教員が学部生に対して大学院への進学を促している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	大学院入試説明会および相談会の実施記録	大学院 HP

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・大学および研究科の教員組織の編成に基づき、専攻の教育研究上の目的および目標に則した教員配置を明示している。	・適切に教員組織を編成しており、大学院授業担当者を増やすことで、教育研究活動の向上を図っている。	・専攻内で将来構想を提示して、計画的に昇格申請できるよう協議し、実施している。	・戦略的な外部資金の獲得を目指して協議している。	・専攻内指導教授会において、中長期的な視野に基づき研究室を柱とした教員組織（職階と年齢）について議論している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・バランスの取れた専門性	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	大学院 HP	大学院 HP、シラバ	教務職員資格審査基準、専攻会議議事録	特になし	専攻会議議事録

学部・研究科名生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名西野 康人

学科名・専攻自然資源経営学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ している ☒ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強するためにフィールドワークを重視し、それを通じて、ヒアリングや実態調査を遂行するための方法を伝えている。	12月に中間報告会を設け、研究の進捗状況を報告し、忌憚のない意見交換を行っている。	科目ごとに授業記録を取ることににより適切な評価と単位認定を行うとともに、複数人体制による論文指導を行っている。2021年度から専攻において学位論文の判定根拠資料に基づいた判定を行っている。	研究テーマに関連した研究会や国内での学会への参加をさせて発表させるようにしている。	研究成果の質向上に向けて、1月に完成前報告会を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・基礎となる学科の学びをベースに、経営学を文理融合の教育体系から学ぶことができる。	【長所】 ・自分の研究成果を理解してもらえるための練習となる。	【長所】 ・教員がどのようなことを教えたのかの記録となり、教育効果を把握しやすい。	【長所】 修士論文に関係する内容が、実際へ適用される可能性など社会貢献の意味合いも期待できる。	【長所】 現状把握ができ、標準修業年限（2年間）での修士取得につながる。
	【特色】 ・雄大な自然を有するオホーツクにおいて、生産、加工、流通・ビジネスを高度に学ぶことができる。	【特色】 ・大学院を修了し、社会に出た場合、多くの方に自らの考えを理解させる能力が養える。	【特色】 ・学位論文の評価基準が明瞭になる。	【特色】 ・なし	【特色】 複数教員によるチェック体制やアドバイスをうけることができる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・研究報告における留学生の日本語で質疑・応答に課題があった。	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・フィールドワークの分析手法やアンケートの分析方法などの基礎を習得する科目の設定の是非。	【課題】 ・留学生に対する日本語の学習機会の提案が必要である。	【課題】 ・なし	【課題】 ・対面による学会の場合は、遠隔地に位置するため、旅費が必要となる。	【課題】 ・なし
根拠資料名	学修のてびき・講義要項＜シラバス＞	年間スケジュールと指導内容 博士後期課程研究支援制度の募集案内 学則等の規程	講義要項（シラバス）	大学院事業報告 掲載学術論文	院生との面談記録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	受験希望者は必ず指導教授（予定者）と事前に面談し、受け入れ方針や入学後の研究計画等について確認している。 指導教授予定者を含めた複数人による学科試験問題（外国語・専門科目）を実施するとともに、指導教員全員による口述試験を行い、公正に入学者を選抜している。 研究科で統一した合否基準を設定し、専攻での合否判定を踏まえ生物産業学研究科委員会において最終的な報告をしている。	修士論文の進捗状況を指導教授が定期的に点検している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学生が指導を受ける指導教授が中心となって学科試験問題を作成するので、より専門的な内容の理解を問うことができる。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・口述試験では様々な専門の指導教授があたるので、受験する学生の幅広い知識やコミュニケーション能力をみることができる。	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・外国人留学生への大学院生募集案内の周知	【課題】 ・なし
根拠資料名	東京農業大学大学院募集要項 東京農業大学大学院ホームページ	なし

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	研究科及び専攻ごとに編制方針を定め、これを専攻主任会議及び専攻会議等にて全構成員に周知している。 外部には、教員募集の際に本方針を踏まえた内容を大学ホームページに掲出している。	大学院設置基準及び学内の教員枠を踏まえ、方針に基づく教員を配置している。	教員採用は一般公募として、大学のホームページ、JREC-IN で募集情報を掲示している。採用にあたっては、専攻による選考試験のほか、資格審査委員会において専門性と職階による教育研究業績基準に照らし合わせた厳格な審査をしている。昇格等は自己申請を基本とするが、大学の定める審査基準により公正かつ厳格に実施している。	大学全体でアンケート形式による自己教育評価と学生による評価（授業・研究室）を毎年度実施し、これをフィードバックするとともに、特に改善を要する事項については、改善計画書を求めている。	専攻における人事計画（指導教授、指導准教授や指導補助教員への昇格・採用等）を専攻主任が中心となって立案し、これを専攻会議等の中で確認・共有している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・改善すべき目標を具体的に把握することができる。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・オホーツク地域の特色・強みを活かすことのできる業績・考えを持った教員であること。	【特色】 ・なし	【特色】 ・資格審査委員会により、多岐にわたる専門性に対応できる審査を実施している。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし。	【問題点】 ・指導教授資格を有する教員が退職するため職階に応じた計画的な昇格、採用が必要である。	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・教員の専門性に合わせた科目編成。	【課題】 ・職階に応じた専門性と教育研究業績を有する教員の採用。	【課題】 ・なし	【課題】 ・専攻、研究科、事務部が連携した人事のチェック体制
根拠資料名	研究科及び専攻の編制方針 教員募集に係る大学ホームページ	大学院案内	資格審査委員会資料	自己教育評価のアンケート 授業・研究室アンケート	大学院案内

学部・研究科名生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名西野康人

学科名・専攻名生物産業学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	研究の立案、実施、考察、文献検索などを実施し、博士論文を完成させるための研究指導科目として特別総合実験・演習を開講している。	・毎年1回、11月に研究成果のポスター発表会を実施している。 ・学内に博士後期課程の学生を対象にした競争的資金制度を設けている。	科目ごとに授業記録を取ることで、適切な成績評価・単位認定を行うとともに、複数人の担当による論文指導を行っている。	試験等による評価、教員の指導のもとに研究成果を国内外の学会等で発表、学術誌に論文として掲載させることにより評価。	博士論文を取得するには、学術論文が2報必要である。このため、学生には指導教員が中心となり論文の掲載状況等について面談・指導を行い、記録している。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 前期課程の専門知識をベースに、博士後期課程で生物産業を文理融合の教育体系から学ぶことができる。	【長所】 専門家以外に自己の成果を伝え、理解してもらうための練習となる。 研究計画の立案、研究資金の獲得の練習となる。	【長所】 受講者の確認ができるので、受講できなかった者への対応が可能となる。 教員が授業内容を記録することにより、教育効果を把握しやすい。	【長所】 国際学会での報告や国際誌への論文の掲載がみられる。 学会において受賞するなど、学生の意欲向上につながる。	【長所】 現状把握ができ、標準修業年限（3年間）での学位取得につながる。 博士論文に遅延が生じた場合の原因解明とその対応に役立つ。
	【特色】 雄大な自然を有するオホーツク地域において、生産、加工・利用、流通・ビジネスを高度に学ぶことができる。	【特色】 自らの考えを伝え、理解させる能力が養える。	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 研究の進捗だけでなく、学位取得後の進路や学生生活面など、多面的な学生指導が可能となる。
現状説明を踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 ポスター発表会は通常の授業時間帯に実施しているため、参加できない学部学生や教員がいる。	【問題点】 教員の業務負担が増加している。	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 文理融合の教育成果が学生に身に付いているかの評価をどのようにするか。	【課題】 より多くの学部学生と教員が参加するための仕組み作り。	【課題】 仕組みの標準化と効率化の推進。	【課題】 学生に研究発表や論文作成の意欲をどのように持たすか。	【課題】 指導教員だけでなく、事務部とのさらなる協力が必要となる。
根拠資料名	学修のてびき・講義要項<シラバス>	成果発表会のポスター 博士後期課程研究支援制度の募集案内 学則等の規程	授業記録 指導教授名簿	大学院事業報告 掲載学術論文	院生との面談記録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	受験希望者は必ず指導教授予定者と事前に面談し、受け入れ方針や入学後の研究計画等について確認している。 指導教授予定者を含めた複数人による学科試験問題（外国語・専門科目）を実施するとともに、本研究科指導教授全員による口述試験を行い、公正に入学者を選抜している。 研究科で統一した合否基準を設定し、専攻での合否判定を踏まえ生物産業学研究科委員会において最終的な合否判定をしている。	大学院入学後の修学状況や学位論文の進捗状況を把握し、修了後の進路決定状況等を調査している。得られた結果を入学選抜の適切性やアドミッションポリシーを継続的に点検するために活用することは専攻主任会議等で確認しているものの、どのように実行するかについては今後の課題となっている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 学生が指導を受ける指導教員が中心となって学科試験問題を作成するので、より専門的な内容の理解を問うことができる。	【長所】 ・なし
	【特色】 口述試験では様々な専門の指導教授があたるので、受験する学生の幅広い知識やコミュニケーション能力をみることができる。	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 留学生対応の入試の実施等の対応を検討する必要がある。	【課題】 現状分析の手法及び点検・評価から改善までの仕組みを制度（委員会設置やマニュアル化等）として構築する必要がある。
根拠資料名	東京農業大学大学院募集要項 東京農業大学大学院ホームページ	なし

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	編制方針を定め、学部運営会議及び研究科委員会等にて周知している。 外部には、教員募集の際に本方針を踏まえた内容を大学ホームページに掲出している。	大学院設置基準及び学内の教員枠を踏まえ、方針に基づく教員を配置している。	教員の採用は広く一般公募とし、大学のホームページ等にて募集している。 採用にあたっては、専攻による面接のほか、資格審査委員会において専門性と職階による教育研究業績基準に照らし合わせた厳格な審査を行っている。	大学全体でアンケート形式による自己教育評価と学生による評価を毎年度実施し、これをフィードバックするとともに、特に改善を要する事項については、改善計画書を求めている。	専攻における人事計画（指導教授、指導准教授や指導補助教員への昇格・採用等）を専攻主任が中心となって立案し、これを学部運営会議等で確認・共有している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 改善すべき目標を具体的に把握することができる。	【長所】 なし
	【特色】 オホーツク地域の特色を活かすことのできる業績・考えを持った教員が多い。	【特色】 博士前期課程は 4 専攻に分かれているが、博士後期課程は 1 つに統合されており、幅広い課題に対応可能である。	【特色】 資格審査委員会により、多岐にわたる専門性に対応できる審査を実施している。	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 教員個人の目標設定にはなっており、専攻や研究科としてどうつなげるか。	【問題点】 人事構成は専攻に依存しており、組織的な確認が十分ではない。
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 資格審査基準の定期的な見直しと、専門分野に応じた適正な基準づくり。	【課題】 大学院 FD 委員会による組織的な教員組織の改善に向けた仕組みと、教員個人の改善計画をリンクさせる。	【課題】 専攻、研究科、事務部が連携したチェック体制の構築。
根拠資料名	研究科及び専攻の編制方針 教員募集に係る大学ホームページ	大学院案内	資格審査委員会資料	自己教育評価のアンケート 授業・研究室アンケート	大学院案内

学部・研究科名 生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名 西野 康人

学科名・専攻名 北方圏農学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■新カリキュラムの点検・改正 本専攻は令和4年度に北方圏農学科に名称を変更し、令和5年度の学則改正を目指し大幅にカリキュラムを変更した。令和6年度から新カリキュラムを施行すべく準備を進め、実施検証を行う。		
実行サイクル	___3___年サイクル（令和5年～令和7年）	_____年サイクル（ 年～ 年）	_____年サイクル（ 年～ 年）
実施 スケジュール	＜令和6年度＞ ・新カリキュラムの準備とシラバス作成 ・現行カリキュラムについては、授業実施記録と授業アンケートを実施する。		
目標達成を測定する指標	・大学院シラバス		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・昨年度から新カリキュラムのシラバスが作成され、それに基づいた授業が開始されている。2年目、完成年度となった本年度は教員、学生双方からのフィードバックを受け、さらに充実した授業内容としている。本年度は外部講師を招聘したセミナーも開催した。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学科の学びとの整合性があり、さらに高度な内容	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・学部のカリキュラムと一貫した内容	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・授業評価とそれによるフィードバック	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	・シラバス ・授業記録		

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■重点的研究領域の強化 専攻の特色や優位性を強化するため「研究室・分野横断型のプロジェクト研究」を設定し、大学院指導教員を主体とした研究組織・研究計画を策定するとともに、総合研究所の研究プロジェクト（学内）または公的・民間等の競争的研究資金（学外）へ応募、採択を目指す。		
実行サイクル	3 年サイクル（令和5年～令和7年）	年サイクル（ 年～ 年）	年サイクル（ 年～ 年）
実施 スケジュール	<令和6年度> ・専攻の研究分野における強み・弱み等の把握（～8月） ・重点的領域研究のテーマ設定（～10月） ・学内外の公募型研究プロジェクト等のリサーチ、申請等準備（～2月）		
目標達成を測定する指標	専攻の研究分野における現状分析結果 ・プロジェクト参画教員・大学院生数 ・学内外の公募型研究プロジェクト応募に向けたロードマップ作成		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	本専攻における強みを把握した上で、複数教員の指導によるプロジェクト的な研究が開始され、その成果が大学院の中間発表、修論発表会で発表された。学内外の公募型研究プロジェクトに応募し、一部が採択に至っている		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・幅広く深い研究の展開	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・地域の課題解決と学内における研究交流の促進	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学内外の公募研究プロジェクトへの採択	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・学内外の公募研究プロジェクトへの応募の促進	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	・大学院生物産業学研究科研究発表会要旨集 ・大学院北方圏農学専攻学位（修士）論文発表会要旨集 ・令和6年度東京農業大学大学院生物産業学研究科事業概要		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■優秀かつ多様な学生確保に向けた取り組み 専攻のアドミッションポリシーに基づき、意欲的な人材の確保（定員充足）を目的とし、特に基礎学科からの進学率向上を目指して研究科で実施している合同入試説明会・相談会等に加え、専攻独自の取り組みとして以下の活動を実施し、学部と大学院の交流を活発化する。 ・キャリアデザインの一環として基礎学科1年生への大学院説明会 ・外部講師を招聘した先端的セミナーの開催を企画し、広く聴講を呼びかけ、アカデミックな環境を醸成する。 ・基礎学科4年生の英語塾開講		
実行サイクル	3 年サイクル（令和5年～令和7年）	年サイクル（ 年～ 年）	年サイクル（ 年～ 年）
実施 スケジュール	・4月～5月英語塾開校準備、 ・6月～9月英語塾指導（大学院生はTAとして参加） ・10月基礎学科1年生に向けた大学院説明会開催		
目標達成を測定する指標	大学院進学者数と合格者数 授業評価アンケート		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	上記の実施スケジュールに記載した内容を実施した。学生の自発的な参加、さらなる参加者の増加が期待される		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・英語による研究表現能力の向上	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・個々の学生の能力・学力に応じた指導	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・自主的な学習への取組	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・AI翻訳の利用と活用	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	・科学英語の履修者数と評価 ・大学院入試における英語の得点		

学部・研究科名生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名西野 康人

学科名・専攻名海洋水産学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■現行カリキュラムの点検・改正 令和5年度において、海洋水産学科および海洋水産学専攻の二階建ての教育プログラムが完成する。これまでと現行のカリキュラムを比較し、現行カリキュラムの問題点を抽出し、必要な時にはディプロマポリシーに基づいてカリキュラムの改正を行う。		
実行サイクル	2 年サイクル（令和5年～令和6年）	年サイクル（令和 年～ 年）	年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	<令和6年度> ・これまでと現行のカリキュラムを比較する（～10月） ・現行カリキュラムの問題点を抽出する（～12月） ・問題点に対する改善を試み・見直しを行う（～3月）		
目標達成を測定する指標	<令和6年度> ・授業評価アンケートによる現行とこれまでとの比較 ・現行カリキュラムの問題点の抽出 ・カリキュラムの見直しの実施		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・満足度・授業評価アンケートに関して前学期および後学期に実施した。 ・全ての大学院生が授業内容に興味があり、80%以上が授業に対して満足したと回答した。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・専攻の学びは学科の学びが発展する形。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・学科の学を大学院でさらに深めて学ぶことができる。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・授業は概ね満足するものであったが、100%には至らなかった。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・個々の科目に関して、満足度・授業評価アンケートの結果を受けて内容を見直し改善する。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	教育評価の結果を踏まえた課題の抽出と改善計画書 授業実施記録		

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■重点的研究領域研究の推進 専攻の特色や優位性を強化する「研究室・分野横断型のプロジェクト研究」を設定し、プロジェクト研究を推進する。大学院指導教員を主体とした研究組織・研究計画を策定するとともに、総合研究所の研究プロジェクト（学内）または公的・民間等の競争的研究資金（学外）へ応募、採択を目指す。		
実行サイクル	2 年サイクル（令和5年～令和6年）	年サイクル（令和 年～ 年）	年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	<令和6年度> ・重点的領域研究のテーマ設定（～10月） ・研究の実施および研究費の獲得のための申請（～2月）		
目標達成を測 定する指標	<令和6年度> ・専攻の研究分野における現状分析 ・プロジェクト参画教員・大学院生数 ・学内外の公募型研究プロジェクト応募に向けたロードマップ作成		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・各教員が専攻の特色や優位性を強化する研究を専攻内・専攻外プロジェクト研究体制を構築し、一部は実施することができ、これから実施段階に移るものも予定されている。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・オホーツク地域の素材を容易に利用することができる。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・オホーツク地域の特徴的な材料を使用している。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・研究組織の構築、計画の立案は未だ不十分である。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・プロジェクト研究の可能性の模索と組織の構築・計画の作成および実施が必要である。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	各研究プロジェクト計画書		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■大学院生確保に向けた取り組み 専攻のアドミッションポリシーに基づき、学部生および社会人等の多様な人材を確保して定員充足するために、研究科で実施している合同入試説明会・相談会、中間発表会等に加え、専攻独自の取り組みとして以下の広報・募集活動を実施する。 ・教育・研究室活動において大学院進学への啓発を行う。 ・HP や SNS などにより、大学院生が実施している研究の魅力を発信する。 ・学科1年生への大学院の説明や研究室訪問をうながす。		
実行サイクル	__3__ 年サイクル（令和5年～令和7年）	_____年サイクル（令和__ 年～__ 年）	_____年サイクル（令和__ 年～__ 年）
実施 スケジュール	<令和6年度> ・主事WGを主体とした課題設定、スケジュール等調整（～7月） ・これまでの広報・募集活動（入試説明会、進学相談会、フレッシュマンセミナー）の検証（～10月） ・次年度広報・募集活動計画の立案（～3月）		
目標達成を測定する指標	<令和6年度> ・現行実施の広報関係企画の評価結果 ・次年度広報・募集活動計画策定 ・令和6年度入試志願者状況（人数、レベル、社会人数等）		
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明			
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	生物産業学部入試対策実行委員会議事録 専攻会議議事録（学科会議議事録と合同）		

学部・研究科名生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名西野 康人

学科名・専攻名食香粧化学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■新教育カリキュラムのシラバス設定 学科のアドミッションポリシーを達成するための、天然資源および食品や香粧品素材の性質や製造原理など基礎から応用まで総合的な学びについて、重点ポイントを明快にし、科目間連携を意識したシラバスを策定する。		
実行サイクル	2 年サイクル（令和5年～令和6年）	年サイクル（令和 年～ 年）	年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	・専攻の学びの重点ポイント(学問内容)の再確認 令和6年4月～10月 ・科目間のシラバス調整（重点ポイントのダブらせ方等）令和6年11月～12月 ・シラバス見直し 令和6年12月		
目標達成を測定する指標	科目連関表、科目相関図		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	新カリキュラムについて、スケジュールに則って概ね実施した。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	専攻会議議事録、授業評価アンケート		

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■実学を目指した研究の強化 食品、化粧品、香料の開発には、大学における基礎研究と産業界におけるその応用の両者が必須である。科学的根拠を最重視することを踏まえた上で、専攻の目的である美と健康、QOL の向上につながる製品の開発につながる研究を推進する。		
実行サイクル	2 年サイクル（令和 5 年～令和 6 年）	年サイクル（令和 年～ 年）	年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	・企業との共同研究のおよび公募型研究資金の申請（通年） ・研究の実施と学会発表(通年)		
目標達成を測定する指標	・企業との共同研究、公募型研究資金への応募、参画人数 ・研究業績（学術論文、学会発表）		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	複数企業との共同研究および科研費を通じて研究資金を獲得して、学生の研究活動に活かした。これら成果は関係する学会で大学院生が公表している。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	関連学会での要旨集、大学 HP（教員の業績）、大学院事業概要		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	大学院博士前期課程および後期課程進学率の向上		
実行サイクル	____3____年サイクル（令和6年～令和8年）	____年サイクル（令和____年～____年）	____年サイクル（令和____年～____年）
実施 スケジュール	推薦試験に向けたスケジュールの公表（4月、学部学生） 大学院を視野に入れた卒業論文のテーマ選定（4～5月、学部学生） 博士後期課程の情報などを積極的に提供（4～7月、前期課程学生）		
目標達成を測 定する指標	推薦およびⅠ期入試による大学院進学者数		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	推薦入試を取り入れたことで、前期課程に目を向ける学生が増加し、 定員は確保できた。一方で、後期課程を志望した学生はいなかった。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・現在の方策は前期課程の学生確保のみである。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・後期課程の学生確保	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	大学院 HP		

学部・研究科名生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名西野 康人

学科名・専攻自然資源経営学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	専攻としての年間を通じた計画的な論文指導体制		
実行サイクル	____ 1 ____ 年サイクル（令和6年）	____ 年サイクル（ ____ 年～ ____ 年）	____ 年サイクル（ ____ 年～ ____ 年）
実施 スケジュール	定例：進捗確認・論文計画報告・研究会（全員） 4月：自己紹介と研究構想の発表（M2・D1） 10月：中間報告会の実施（ポスター発表会〔11月〕への指導） 12月：指導教授による事前審査・完成前報告会（M2・D3）		
目標達成を測 定する指標	成績評価		
自己評価 （☑を記入）	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	予定していた「進捗確認・論文計画報告・研究会」、「自己紹介と研究構想の発表」、「中間報告会の実施」、「指導教授による事前審査・完成前報告会」は全て実施した ※「中間報告会の実施」は実施目的を「生物産業学研究科・修士論文発表会（2月）への指導」に変更し実施した。 ※「指導教授による事前審査・完成前報告会（M2）」は1月に実施した。 ※D3の院生は今年度における博士論文の提出を断念したため「完成前報告会（D3）」は実施していない		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・専攻内で設けられた計画的な論文指導体制のもとで実施することができた。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	大学院生の学会・研究会等への参加と報告	留学生の研究報告におけるコミュニケーション力（質疑・応答）向上にむけたサポート	
実行サイクル	____1____年サイクル（令和6年）	____1____年サイクル（令和6年）	____年サイクル（ ____年～ ____年）
実施 スケジュール	5月：研究計画の策定（学会・研究会所属と参加） 6月：学会・研究会報告の検討 10月：学会・研究会への参加ないし報告	適宜	
目標達成を測定する指標	学会・研究会への参加および報告の実績	学会・研究会での報告の実績	
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	・D3の院生は「令和6年度日本農業経営学会研究大会」にて個別報告を行うとともに、学会報告内容をまとめた論文を投稿している（投稿論文は現在査読審査中） ・D1の院生は現在「実践総合農学会」での個別報告にむけて準備中である。	・D3の院生は「令和6年度日本農業経営学会研究大会」にて個別報告を行うとともに、学会報告内容をまとめた論文を投稿している（投稿論文は現在査読審査中） ・D1の院生は現在「実践総合農学会」での個別報告にむけて準備中である。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究に対する客観的な評価が得られる。	【長所】 ・研究報告におけるコミュニケーション力（質疑・応答）の向上が期待される。	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・一つの学会にしか参加していないため、研究報告の機会が少ない。	【問題点】 ・一つの学会にしか参加していないため、研究報告の機会が少ない。	【問題点】 ・
	【課題】 ・複数の学会に参加し、報告機会を数回得られるようなサポートが必要である。	【課題】 ・複数の学会に参加し、報告機会を数回得られるようなサポートが必要である。	【課題】 ・
根拠資料名	「令和6年度日本農業経営学会研究大会 個別報告タイムテーブル」	「令和6年度日本農業経営学会研究大会 個別報告タイムテーブル」	

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	大学院受験生の確保に向けた取り組み		
実行サイクル	_____1_____年サイクル（令和6年）	_____年サイクル（ _____年～ _____年）	_____年サイクル（ _____年～ _____年）
実施 スケジュール	随時：院生報告会への参加 5月：フレッシュマンセミナーなどを通じた大学院教育や研究内容 のアピール 11月：ポスター発表会を通じた大学院教育や研究内容のアピール		
目標達成を測 定する指標	2025年度入試志願者状況 院生報告会の参加者 ポスター発表会への参加者		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	「生物産業学研究科 大学院進学説明会（6月）」、「オホーツクフレ ッシャーズセミナー（10月）」、「生物産業学研究科 ポスター発表会 （11月）」において、学部学生に対する大学院での学びの魅力を説明 した。その結果、自然資源経営学専攻の受験者を1名獲得することが できた。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・大学院の学びを紹介する際には、専攻の学び紹介をするだけでな く、大学院進学の特長ややりがいなど、学生自らがキャリアデザ インにおいて大学院進学を意識できるような説明の実施を心がけた。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学部から受験する大学院生が少ない。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・指導教員からの学部学生への大学院進学への動機付けをより工夫 する必要がある。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

学部・研究科名生物産業学研究科

学部長・研究科委員長名西野康人

学科名・専攻名生物産業学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	複数指導体制による教育の推進 博士後期課程入学時に、大学院生と指導教員で博士論文完成までのロードマップを作成し、単年度ごとにロードマップをもとに大学院生と面談を行い、博士論文作成の進捗状況を把握する。遅れがある場合には、是正していく。		
実行サイクル	____ 3 ____ 年サイクル（令和 5 年～令和 7 年）	____ 年サイクル（令和 ____ 年～令和 ____ 年）	____ 年サイクル（令和 ____ 年～令和 ____ 年）
実施 スケジュール	＜令和 6 年度＞ ・指導教員などの決定（～7 月） ・博士論文作成のロードマップの作成（～9 月） ・博士論文作成の進捗状況把握にむけ面談内容の検討・作成（～12 月） ・博士論文作成の進捗状況の把握（大学院生との面談）（～3 月）		
目標達成を測定する指標	＜令和 6 年度＞ ・ロードマップの作成 ・面談内容の検討・作成 ・大学院生との面談		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☒ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	複数指導体制の教員を決定することができた。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 なし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 なし	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	先端性や特色ある研究テーマの継続 「オホーツク地域に根ざし、かつ国際的に評価される自然科学、社会科学に関する研究」をもとに、先端性を有して継続すべき研究テーマを実行するための大学院指導教員を主体とした研究組織・研究計画を策定し、学内・学外の競争的研究資金へ応募、採択を目指す。		
実行サイクル	_____ 3 _____ 年サイクル（令和 5 年～令和 7 年）	_____ 年サイクル（令和 _____ 年～令和 _____ 年）	_____ 年サイクル（令和 _____ 年～令和 _____ 年）
実施 スケジュール	＜令和6年度＞ ・専攻における強み・弱み等の把握（～8月） ・先端性や特色ある研究のテーマ設定（～12月） ・学内外の競争的資金等のリサーチ、申請等準備（～3月）		
目標達成を測定する指標	＜令和6年度＞ ・専攻における現状分析結果 ・先端性や特色ある研究のテーマ設定 ・学内外の競争的資金への応募に向けたロードマップ作成		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	大学院指導教授、指導補助教員は自らの専門性にとらわれることなく、様々な研究を実施し、大学院生も加わっている。 学内研究プロジェクトに採択され、当研究科の大学院指導教授が研究代表者となっている。 大学院指導教授、指導補助教員は科研費等、様々な公的・民間等の競争的資金に応募し、採択されている。 学内に博士後期課程の学生を対象とした競争的資金制度があり、当研究科の学生も採択されている。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 多様な専門性を有した教員から構成されているため、学際的で新規性の高い研究プロジェクトを立てやすい。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 多様な能力を有した若い研究者を育てることができる。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 具体的な成果がすぐには得られない場合がある。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 競争的資金の獲得につながっているのか。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	大学院事業概要 東京農業大学のホームページ		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	優秀かつ多様な学生確保に向けた取り組み アドミッションポリシーに基づき、優秀で意欲のある博士前期課程修了生や社会人、外国人等多様な人材を確保するため、合同入試説明会等に加え、独自の取り組みを実施する。 ・博士後期課程の研究テーマだけではなく、公表した研究論文、学会での発表や受賞歴などを広く周知する。 ・博士後期課程修了（博士論文取得）後の就職先を周知する。		
実行サイクル	_____ 3 _____ 年サイクル（令和 5 年～令和 7 年）	_____ 年サイクル（令和 _____ 年～令和 _____ 年）	_____ 年サイクル（令和 _____ 年～令和 _____ 年）
実施 スケジュール	<令和6年度> ・課題設定、スケジュール等調整（～8月） ・これまでの広報・募集活動（入試説明会、進学相談会、フレッシュマンセミナー等）の検証（～10月） ・次年度広報・募集活動計画の立案（～3月）		
目標達成を測定する指標	<令和6年度> ・実施した広報活動等の評価結果 ・次年度の広報・募集活動計画の策定 ・令和7年度入試志願者並びに合格者の状況		
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・大学院生物産業学研究科の進学相談会を実施した。 ・今年度の博士後期課程の合格者は1人（受験者1人）であった。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・博士後期課程志望者が少ない	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・博士後期課程受験者の確保	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	東京農業大学のホームページ 2025年1月生物産業学研究科委員会会議の資料		